上田西高出身の根本選手

J1湘南ベルマーレで今季からプロデビュー！

母校にオンラインで決意表明

上田西高校出身で、サッカーJ1リーグの湘南ベルマーレで今季デビューした根本凌さん（22歳）が8日、母校とオンラインで結んで決意表明を行いました。

同校3年時に、根本さんがフォワードを務めた上田西サッカー部は全国高校サッカー選手権で3位に輝き、全国的な注目を集めました。卒業後に根本さんは鹿屋体育大学（鹿児島県）に進学し、20～21年は同大に所属しながら出身地をホームとする湘南の「特別指定選手」に認定されて公式戦に出場。今季から晴れて湘南メンバーとなり、最高峰のJ1リーグでの活躍が期待されています。

オンライン決意表明では、同校新聞委員会委員長の辺見咲良（さくら）さん（2年）の「選手として心がけていることは」との質問に答え、「つねにゴールを狙い、ひたむきにプレーすること。日常生活も当たり前のことを当たり前にできるよう、自身を管理したい」と根本選手。

同部キャプテンの白石斗夢（とむ）さん（2年）は「3位になったときのチームの強みは」と聞き、根本選手は「和気あいあいとしていながら厳しいことでも言い合えた。それが試合にもつながったと思う」と話しました。

当時から同部を指導する白尾秀人監督は「根本たちの活躍を見てチームに入って励む生徒も多い。今後は日本代表を目指して頑張ってほしい」とエールを送り、根本選手は「上田西では大事なことを教えてもらった。

上田小県近現代史研究会

即時撤退を求め声明

上田小県地域の有志でつくる上田小県近現代史研究会（小平千文会長）が10日、ロシアのウクライナ侵攻に抗議し即時撤退を求める声明を発表しました。

"ロシアのウクライナ侵攻に抗議"

世界中の人々がこの侵略に対して強い抗議の声をあげ、ロシア国内でも弾圧に耐えながら戦争反対を叫ぶ人々の姿が伝えられているにもかかわらず、プーチン政権は耳を傾けようとせず、核兵器使用や原発破壊もちらつかせて攻撃をエスカレートさせているとし、いかなる理由があっても市民への殺傷や日常生活の破壊は決して許されるものではないと抗議しています。

また、今回の侵略を口実に軍備増強やそれを可能にするための改憲、国是である非核三原則を否定するとの主張が声高になっているとし、「こうした動きは世界平和の実現にマイナスになると考える」「岸田文雄首相には、唯一の被爆国の首相として核兵器使用に断固反対するとともに、一日も早い核兵器禁止条約の批准を求めます」と記しています。

同会では、この声明をロシア大使館・ウクライナ大使館・岸田文雄内閣総理大臣宛てに送付しました。なおロシア大使館に対しては、ロシア語訳も添えて送付されました。

丸子の「こどもレストラン」

うな重に参加者が舌鼓

●上田高生ら集めた支援物資など配布

上田市長瀬の社会福祉法人まるこ福祉会では43回目となる「こどもレストラン・きらっと」を先ごろ施設内で開き、特別メニューのうな重などを提供。また、上田高校の生徒有志でつくる「フードバンクin上田高校」が同校生や保護者に呼びかけて集めた食料、NPO法人ホットライン信州の協力による支援物資なども参加者に配布しました。

同「こどもレストラン」は上田高校と丸子修学館の生徒、長野大学生が運営を支え、地域の高齢者でつくるボランティア団体も参加。この日は、立科町在住の演奏家・秦野正博さんによるピアノの生演奏を聴きながらの食事となりました。

初登場のうな重などは、施設内の食堂「ぐらんまるしぇ」がボランティアも含めた65食分を用意。姉・兄・妹とともに参加した小学6年男子は、「うなぎは大好き。おいしい！」と舌鼓を打っていました。

同福祉会の柳澤正敏理事長は「コロナ禍で休止するこども食堂も多いが、できるだけ開きたい。ウクライナ侵攻で満足に食事ができない子どもたちも多いと思う。食は命であり、生産や提供、調理など関わった人に感謝して食べてほしい」と話していました。

「蚕都上田」の輝きと未来

生糸輸出再考8

林之助と江戸・細述②

信濃史学会会員　阿部　勇

3月5日。「岡部志津馬様より酒三升入徳利とすし（寿司）」。このあとに「諸方へ土産物配ル」と書かれ、重役ら20数人へ贈った土産物が書かれています。

岡部志津馬へ金二百疋。岡部四郎兵衛や稲垣林右衛門ら勘定奉行4人へは金百疋。産物掛の長谷川には金二朱と小杉二束（小杉とは小杉原のことで鼻紙などに使う原紙）。江戸産物会所トップの大崎由兵衛には金二百疋と小杉などその地位に応じた土産物、門番へも金二朱を贈る気の使いよう。

「土産物」といっても「お金」が主であったことがわかります。

江戸上田藩邸跡付近（柳橋2019年）

「紙」を藩士への贈答品としてよく利用していたことは、上田幕末の御用商人丸山平八郎の帳簿からもわかります。

この日「江戸御勘定奉行所」で役人らから最重要課題である「神奈川交易」について「仰せ付けられ」ますが、具体的な内容は記されていません。

6日になると上田の伊藤殿や柳沢殿、小諸の高橋殿らの豪商から手紙が届き、返信しています。江戸に到着してから3日、藩邸内の動向や仕事の内容を地元へ伝えたのでしょう。

陽葉（ようよう）

ウクライナ民話をもとにした絵本『てぶくろ』は、57年前に福音館書店が発刊。累計300万部を突破するという、ロングセラーです。絵はロシアの著名な絵本作家で、キエフで美術を学んだエウゲーニー・M・ラチョフ氏。筆者は6年前、上田市の小学校でこの本の劇を演じたKちゃんに教わりました◆作中の〝てぶくろ〟は、雪が降りしきる森に片方だけ落ちていました。ふわふわの毛がついた、厚手のミトン。見つけたネズミがそのなかで暮らすことにします。そこへカエルが、ウサギが、キツネが、オオカミが、イノシシやクマもやってきます。「わたしも入れて」「どうぞ」。「ぼくも入れて」「いいよ」と、シェアハウスです◆ロシアによるウクライナ侵攻から、本稿を書いている時点で15日。現地報道の惨状に胸が詰まります。ガレキに埋まったぬいぐるみ同様、本国でも愛されているだろうこの絵本も壊れた家の下かもしれません。子どもたちの涙を見ると、春到来を喜ぶ気持ちになれません。（麻）

ロングセラー
真田氏発祥の地から全国へ発信
真田三代ガイドの決定版！

信繁（幸村）に関する新史料発見により、加筆されました！

改訂2版好評

真田幸村
「大坂夏の陣図屏風」（大阪城天守閣蔵）より

真田三代の郷・上田地域史研究の第一人者、寺島隆史氏（元上田市立博物館長）の最新の研究成果を収録。

◆ 信繁の生年は、実は永禄13年が有力（享年46歳）。
◆ 上杉家への証人（人質）は家来（被官）扱いだった。
◆ 信繁も第一次上田合戦に参戦していた。
◆ 贈答用に、塩田・前山村の領地から漆を送らせていた。

戦国期を疾風のごとく駆けぬけた真田一族。
幸隆・昌幸・幸村・信幸の活躍をたどる!!

疾風六文銭 真田三代と信州上田

解説／寺島隆史・金子万平
A5判・140ページオールカラー・地図付

上田市観光ガイド付

定価880円（税込）

特別寄稿　大阪城天守閣館長・北川央氏「真田幸村と大坂の陣」収録

お求めは各書店、信濃毎日新聞取扱いの新聞販売店で。

週刊上田新聞社　〒386-0012長野県上田市中央6-3-41
TEL0268-22-6200　FAX0268-22-6201